

プログラム第1日目：5月20日(土)

大会長講演	14：40 ～ 15：10	会場 1
-------	---------------	------

司会：佐藤純一（龍谷大学）

健康と病理

○村岡潔（佛教大学社会福祉学部）

シンポジウム	15：15 ～ 17：45	会場 1
--------	---------------	------

病をめぐる Contestation——本態・病因・治療法を論点として

司会：黒田浩一郎（龍谷大学）

パラダイムシフトという幻想

—EBM の時代に生きて—

○齊尾武郎（無所属）

先制医療への意志は「正常病」の症状かもしれない

—HPV ワクチン接種被害事件を糸口にして—

○井上芳保（無所属）

精神医学的心理とその不満

—診断マニュアル DSM を例に—

○美馬達哉（立命館大学）

RTD①	12 : 30 ~ 14 : 30	会場 4
------	-------------------	------

Contested illness という事象 —社会的要因を探る—

企画者：鈴木理恵（ミシガン大学フリント校）

発表者：池田光穂（大阪大学）

美馬達哉（立命館大学）

志水洋人（大阪大学）

入澤仁美（兵庫医科大学）

RTD②	12 : 30 ~ 14 : 30	会場 5
------	-------------------	------

「チーム学校」とは何か —教育と保健医療の連携の課題—

企画・話題提供者：荻野貴美子（星槎大学）

話題提供者：北村哲郎（A 市立中学校教諭）

話題提供者：細田満和子（星槎大学）

一般演題／口演	12 : 40 ～ 14 : 30	会場 2
---------	-------------------	------

●第1セッション 質的研究と人々の方法

司会：海老田大五朗（新潟青陵大学）

1-1 精神科診療場面における知識の非対称性の調停

—知識配分についての会話分析—

○河村裕樹（一橋大学）

1-2 訪問ケアにおける病いの理由づけ実践

—訪問鍼灸マッサージを事例として—

○坂井愛理（東京大学）

1-3 救命救急センターにおけるワークの研究（1）

—看護実践に挟まれるコミュニケーションに注目して—

○西村ユミ（首都大学東京）・前田泰樹（東海大学）

1-4 救命救急センターにおけるワークの研究（2）

—患者の入室方法の変化に着目して—

○前田泰樹（東海大学）・西村ユミ（首都大学東京）

1-5 コントロール指標の生きられた経験

—2型糖尿病患者の数値をめぐる表現から—

○細野知子（首都大学東京大学院）

一般演題／口演	12 : 40 ～ 14 : 30	会場 3
---------	-------------------	------

●第2セッション 感染症とその実態

司会：伊藤美樹子（滋賀医科大学）

2-1 生存と生活の質の重要性

—葉害H I V感染被害者の長期療養のための患者参加型支援研究の視点より—

○久地井寿哉（社会福祉法人はばたき福祉事業団）・柿沼章子（社会福祉法人はばたき福祉事業団）
岩野友里（社会福祉法人はばたき福祉事業団）・大平勝美（社会福祉法人はばたき福祉事業団）

2-2 HIV/AIDS の災禍？ “新興感染症” の新たなグローバルビジネス展開？

○黒野利佐子（神戸常盤大学）

2-3 HPV ワクチン接種被害者の「救済」実態と意義・問題点

○片平洸彦（健和会 臨床・社会薬学研究所）・榎 宏朗（健和会 臨床・社会薬学研究所）

2-4 子宮頸がん予防ワクチン接種後の副反応を疑う一例から学ぶこと

○杉原正子（独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター・慶應義塾大学）

2-5 自己採取 HPV 検査陽性者の子宮頸がん検診受診動向追跡調査

○伊藤真理（未来工学研究所・東京大学）・有藤亜希子（島根県出雲市）
松山裕（東京大学大学）

一般演題／示説 1	14 : 00 ～ 14 : 30	会場 7
-----------	-------------------	------

----- 司会：種田博之（産業医科大学） -----

P1-1 英国 IPW (Interprofessional work) 実践者がもつ IPE (Interprofessional Education) への意識：調査報告

—看護師・介護福祉士・マネジャー職への質問紙調査より—

○小山 晶子（貞静学園短期大学）・小野 智佐子（神奈川工科大）

P1-2 パフォーマンスを通じた「分人化」による薄い人間関係の形成と継続

○杉本洋（新潟医療福祉大学）・栗崎由貴子（新潟医療福祉大学）

五十嵐紀子（新潟医療福祉大学）・金谷光子（新潟医療福祉大学）

P1-3 他科受診について

○山縣 弘子

P1-4 「育薬」は薬害を防ぐ考え方か？

○松山圭子（青森公立大学）

P1-5 「化学物質過敏症」はいかにして主張されるのか

—臨床環境医による一般向けの著作を対象として—

○景山千愛（京都大学）

プログラム第2日目：5月21日(日)

教育講演	10 : 50 ~ 11 : 50	会場 1
------	-------------------	------

司会：美馬達哉（立命館大学）

病い研究とポリフォニー
—ミハイル・バフチンから刺激を受けて—

○池田光穂（大阪大学）

ランチョンセミナー	12 : 05 ~ 12 : 50	会場 1
-----------	-------------------	------

司会：村岡潔（佛教大学）

健康という幻想 / 病いという至福 / 癒しという陥穽
医療社会学批判のための三題噺

○佐藤純一（龍谷大学）

特別講演	14 : 10 ~ 15 : 00	会場 1
------	-------------------	------

司会：細田満和子（星槎大学）

The Medical Profession
: Altruistic or a Self-interested Threat to the Public?

○Mike Saks (University of Suffolk)

RTD③	8 : 45 ~ 10 : 45	会場 4
------	------------------	------

「発達障害」ってなんだろう ―社会学的に考える―

企画者：美馬 達哉（立命館大学）
 話題提供者：佐々木洋子（大阪市立大学）
 西田有香子（名古屋大学）
 高木美歩（立命館大学）

RTD④	8 : 45 ~ 10 : 45	会場 5
------	------------------	------

生涯研究並びに研究者のあり方について

企画者：中川輝彦（熊本大学）
 話題提供者：村岡潔（佛教大学）
 佐藤純一（龍谷大学）

RTD⑤	15 : 10 ~ 17 : 10	会場 4
------	-------------------	------

リプロダクションの経験と保健医療

企画者：白井千晶（静岡大学）
 話題提供者：菅野摂子（電気通信大学）
 熱田敬子（早稲田大学）
 永山聡子（東邦大学）

RTD⑥	15 : 10 ~ 17 : 10	会場 5
------	-------------------	------

医師の抱える不確実性 ―医療人類学の視点から―

企画者・話題提供者：牛山美穂（慶應義塾大学）
 話題提供者：新ヶ江章友（大阪市立大学）
 照山絢子（筑波大学）
 司会：福井栄二郎（島根大学）

RTD⑦	15 : 10 ~ 17 : 10	会場 6
------	-------------------	------

科研費審査における学際的共同研究の扱いはどうあるべきか

―科研費改革 2018 と保健医療社会学の未来―

企画者・司会者：樫田美雄（神戸市看護大学）・松繁卓哉（国立保健医療科学院）
 話題提供者：油井清光（神戸大学）
 松繁卓哉（国立保健医療科学院）
 樫田美雄（神戸市看護大学）
 指定討論者：孫大輔（東京大学）

一般演題／口演	8 : 45 ~ 10 : 35	会場 2
---------	------------------	------

●第3セッション 語りの質的研究

司会：高山智子（国立がん研究センター）

- 3-1 卵子提供で母親になった女性の意識変化のプロセス
—追跡的インタビュー2例の分析から—

○白井千晶（静岡大学）

- 3-2 「やり尽す医療」を問い直す
—End-of-Life と向き合う小児科医の語りから—

○鷹田佳典（早稲田大学）

- 3-3 乳がん経験者における「ピア・サポート」
—乳房再建をめぐる語り—

○菅森朝子（立教大学大学院）

- 3-4 妻の介護経験から学んだ死に方
—在宅と病院における緩和ケアという選択—

○飯田淳子（川崎医療福祉大学）

- 3-5 膝の手術を受けた方にとっての日常と宗教的慣習のつながり

○齋藤貴子（日本赤十字秋田看護大学・首都大学東京）

一般演題／口演	8 : 45 ~ 10 : 35	会場 3
---------	------------------	------

●第4セッション 健康に関わる取り組みと論争

司会：佐藤哲彦（関西学院大学）

- 4-1 思春期における家族機能と成人期以降の Sense of Coherence との関連
—横断デザインによる全国調査データより—

○戸ヶ里泰典（放送大学）・中山和弘（聖路加国際大学）・横山由香里（日本福祉大学）
米倉佑貴（聖路加国際大学）・山崎喜比古（日本福祉大学）

- 4-2 テレビおよびWEBにおける発達障害をめぐる Contestation

○西田有香子（名古屋大学）

- 4-3 「肥満」と「肥満エビデミック」をめぐるコンテストेशन
—米国、豪州、日本の事例から—

○山中浩司（大阪大学）

- 4-4 東京の「下町」におけるソーシャル・キャピタルと人々の健康
—谷中・根津・千駄木における Community-Based Participatory Research からの示唆—

○孫大輔（東京大学）・密山要用（東京大学）・松下弓月（東京大学）

- 4-5 Contested illness の患者と主治医の信頼構築に向けて
—代替補完医療利用者の病気の原因帰属・患者満足度—

○本間三恵子（埼玉県立大学）

一般演題／口演	15 : 10 ～ 17 : 00	会場 2
---------	-------------------	------

●第5セッション 実態調査と教育

司会：井口高志（奈良女子大学）

- 5-1 医科大学での社会学教育
○金子雅彦（防衛医科大学校）
- 5-2 老成学におけるコミュニティ関与型老人の実態調査
—高齢者施設でのベリダンスイベントの開催を通じて—
○入澤仁美（兵庫医科大学・順天堂大学）
- 5-3 看護師業務からみる一般病床に起きる問題
○海野 まゆこ（放送大学）
- 5-4 障害者手帳をもたずに発達障害の診断がある者の実態
—23 年生活のしづらさなどに関する調査（厚生労働省）より—
○北村弥生（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）
- 5-5 死の臨床における専門職の創出あるいは復活をめぐる一考察
—いかにして「臨床宗教師」は日本的看取りを目指す専門職になりえるか—
○福永憲子（大阪府立大学）

一般演題／口演	15 : 10 ～ 16 : 40	会場 3
---------	-------------------	------

●第6セッション 地域医療と生活

司会：蘭由岐子（大手門学院大学）

- 6-1 中国農村部における地域型総合医療の推進の持つ意味と役割
○賈 子申（佛教大学）
- 6-2 在住外国人の母子保健支援における保健師と通訳者の連携について
—保健師・外国人利用者・通訳者に対するアンケート調査結果から—
○飯田奈美子（立命館大学）
- 6-3 コンタクトゾーンとしてのハンセン病療養所長島愛生園
—明石海人、小川正子のプロデューサーとしての内田守—
○松岡秀明（東京大学）

一般演題／示説 2	10 : 00 ～ 10 : 30	会場 7
-----------	-------------------	------

----- 司会：清水準一（首都大学東京） -----

P2-6 専業主婦のライフコースを選択した女性の自己意識に関する研究

○小野智佐子（神奈川工科大学）・小山晶子（帝京大学）
入江多津子（常葉大学）

P2-7 地域開催型ラジオ体操に参加する高齢者の身体・心理面の健康の検討

—グループ・インタビューの内容分析—

○石井俊行（姫路獨協大学）

P2-8 年齢の違いによる「老後の準備のとりえ方」についての調査

○入江多津子（常葉大学）・小野智佐子（国際医療福祉大学）

P2-9 人生の終焉にかかわる患者の意思決定プロセス

—筋萎縮性側索硬化症を例に—

○長瀬雅子（順天堂大学）

P2-10 新生児マス・スクリーニングへのタンデムマス質量分析計の導入

—都道府県、指定都市への質問紙調査から—

○笹谷絵里（立命館大学）

P2-11 脳血管疾患を発症した高齢者における「病いとの向き合い方」と

sense of coherence および Self-Rated Health

○阿諏訪公子（初台リハビリテーション病院・放送大学）・戸ヶ里泰典（放送大学）
横山由香里（日本福祉大学）・谷木龍男（清和大学）
米倉佑貴（聖路加国際大学）・徳山千尋（日本医療科学大学）